

富士見市防災環境カルテ
上沢1丁目町会

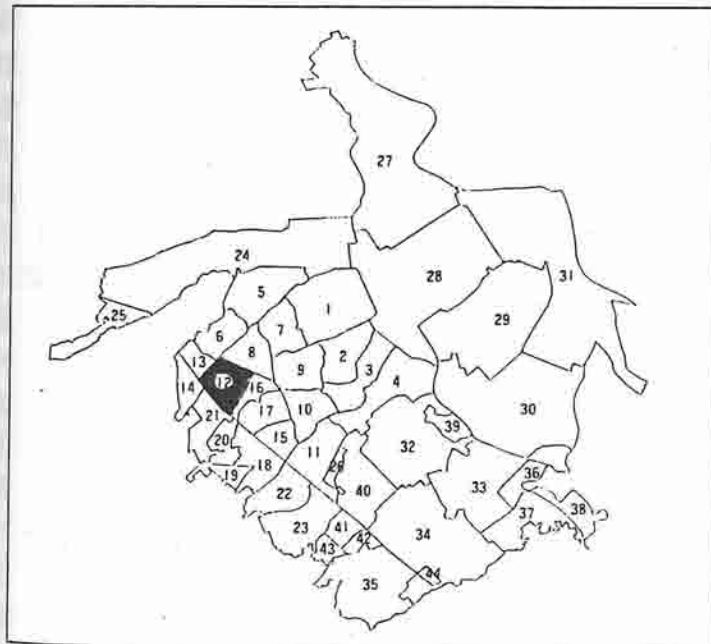
位置番号 12

概況

上沢1丁目町会は、富士見市の西部に位置し、町会全体が台地（台地段丘）で形成され、北側に県道大井・朝霞線が、南西部に東武東上線が通っている。環境は、武蔵野台地の住宅と畑とが調和した良好な地域である。北部にはみどりの散歩道「上沢の森」、上沢会館があり、憩いの場となっている。昭和34年以前は、家屋棟数（14棟）も少なく、農家が点在する静かな農村地帯であった。しかし、近年、南部は宅地化が進み、住宅が密集してきた。住宅地の周辺には商店街ができ、活気に満ちている。

水害は、水害履歴から台風による大雨により住宅地付近の畑、北東部の道路（県道大井・朝霞線）の交差点で、それぞれ下水の溢水のため冠水する内水災害が発生が予想されるが、被害は少ないと想定される。地震災害は、木造建物密集地が出火、延焼の危険性がやや高いと予想される。

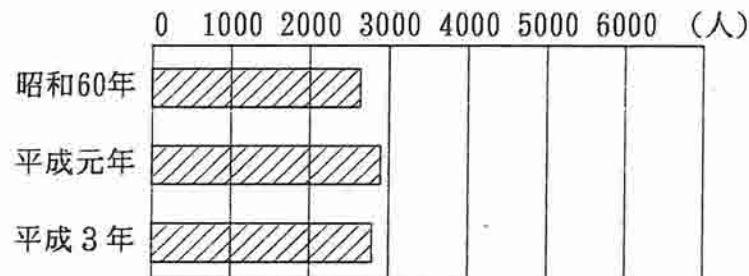
位置図



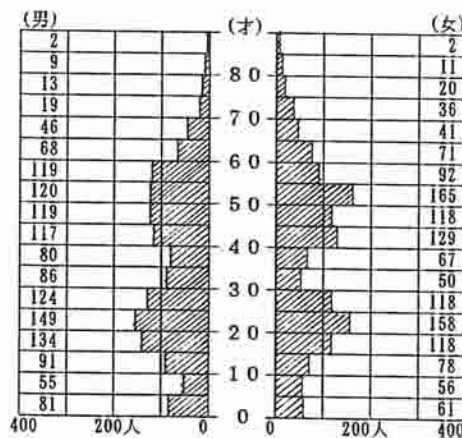
1. 基礎指標

・面積	0.207km ²
・人口(平成3年10月1日現在) 男	1,424人
女	1,395人
計	2,819人
・人口密度	13,618.4人/km ²
・寝たきり老人数	1人
・ひとり暮らし老人数	14人
・世帯数	983世帯

人口推移



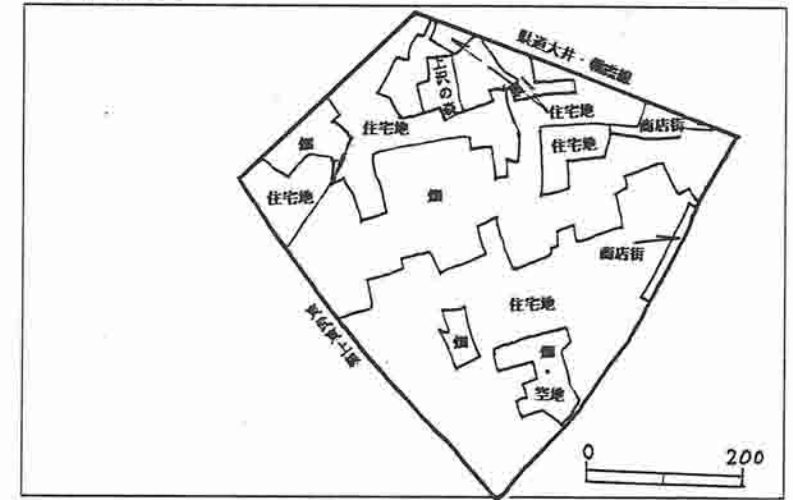
年齢別人口 (平成3年)



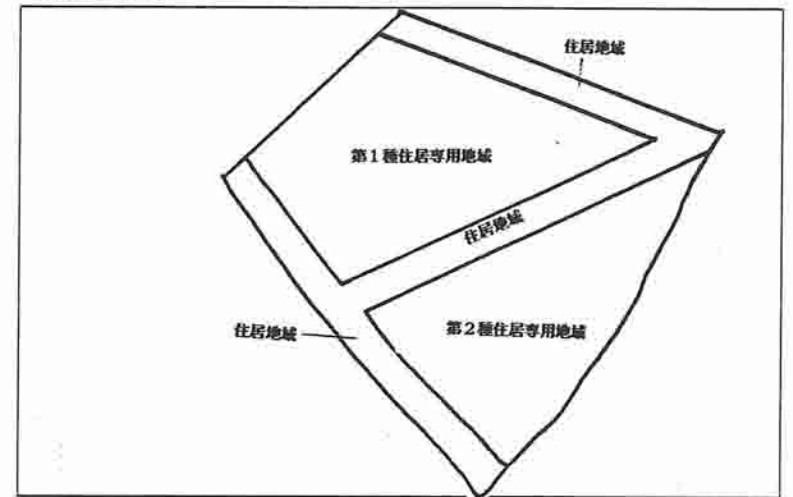
・商住工混在率住居系	94.6%
店舗系	3.7%
工業系	1.7%

富士見市防災環境カルテ
上沢1丁目町会 位置番号 12

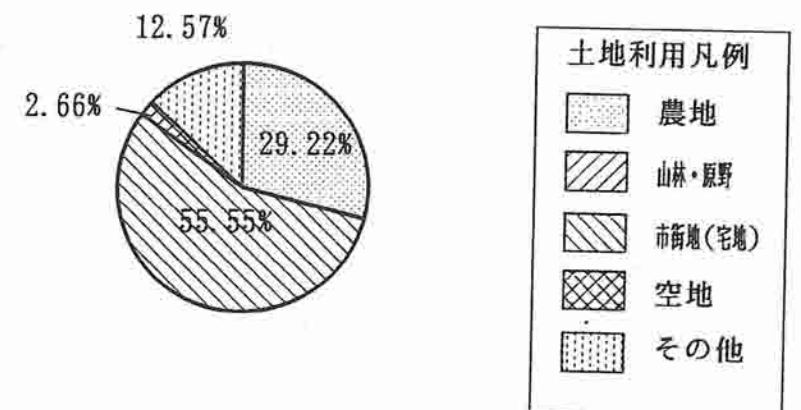
町会現況図



用途地域図



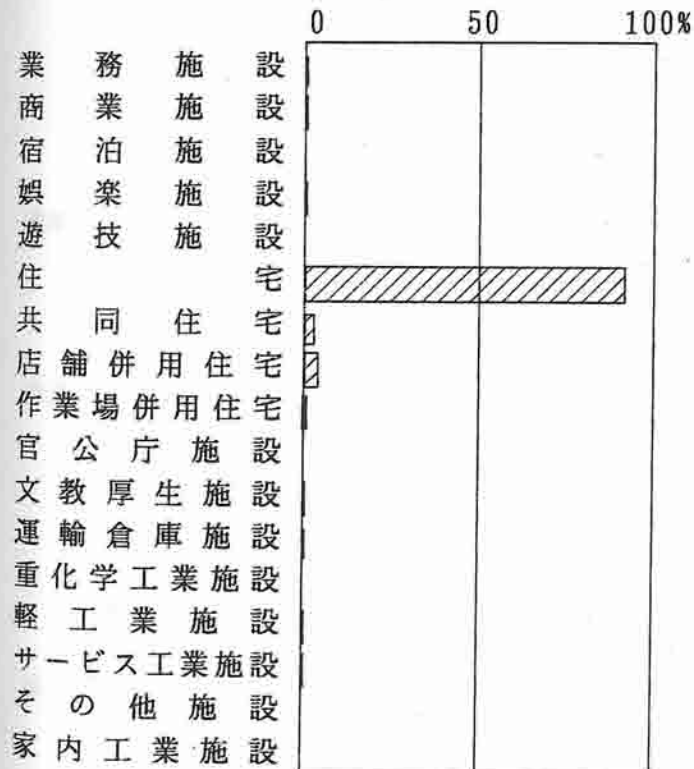
土地利用現況



2. 建物指標

・建物棟数	1,089棟
・木造建物	1,045棟
・非木造建物	44棟
・建物面積	38,257.45㎡
・木造建物	33,899.13㎡
・非木造建物	4,358.32㎡
※建物面積は1階の面積	
・住宅率	92.0%
・木造率	96.0% (1,045棟)
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	24棟
・同上率	2.3%
・建物階層別現況 (木造建物)	
1階	322棟 30.8%
2階以上	723棟 69.2%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	52本	251.2本/㎏
・幹線道路率	3本	14.5本/㎏
・公共空地面積	6,185.0㎡	
・公共空地率	3.0%	
・1人あたり公共空地	2.2㎡/人	
・公共空地内容 (*指定避難所)		
名称	面積	
1. 高校	0㎡	
2. 中学校	0㎡	
3. 小学校	0㎡	
4. 公園	0㎡	
5. 上沢会館*	185.0㎡	
6. 緑の散歩道「上沢の森」	6,000.0㎡	

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 所沢市、川越地区消防組合、 応援協定 新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	13本
・1消火栓あたり世帯数	75.6世帯/本
・消防水利貯水施設数	4 (1) か所 () 内は容量40トン以上の施設数
・消防団機械器具置場	0

5. 危険物指標

・給油取扱所	1か所
・一般取扱所	1か所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	0か所
・地下タンク貯蔵所	0か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和 年 月 ()	棟	棟	か所
年 月 ()	棟	棟	か所
年 月 ()	棟	棟	か所
年 月 ()	棟	棟	か所
年 月 ()	棟	棟	か所
年 月 ()	棟	棟	か所
年 月 ()	棟	棟	か所
・崖崩れ被害 (年 ~ 年) 0件			
・火災出火件数 (年 ~ 年) 0件			
・1923関東大地震被害			
家屋全壊	0戸		
家屋半壊	0戸		
被害率	0%		

7. 防災基盤施設

消防	0か所	
病院	0か所	
医院	1か所	富士見産婦人科
休日診療所	0か所	
警察	0か所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	0か所	
・自主防災組織(数)	0	
・自主防災組織参加世帯率	0%	
・飲用井戸本数	0本	

8. 危険度評価

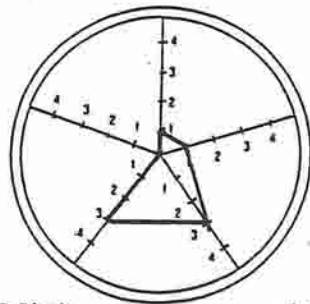
・内水災害危険度	1ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	1ランク
・木造建物出火危険度	3ランク
・木造建物延焼危険度	3ランク

地盤	地盤の地震動危険度	1ランク
危険度	液状化危険度	0ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4

内水災害危険度



液状化危険度

木造建物被害危険度

木造建物延焼危険度

木造建物出火危険度

※ 想定震度 5(+) (強震(強))

9. 地盤条件

地盤は、町会全体が台地で形成されているため硬い。町会全体は震度5(+) (強震の強い方) の地震が予想される。地盤条件は良い。

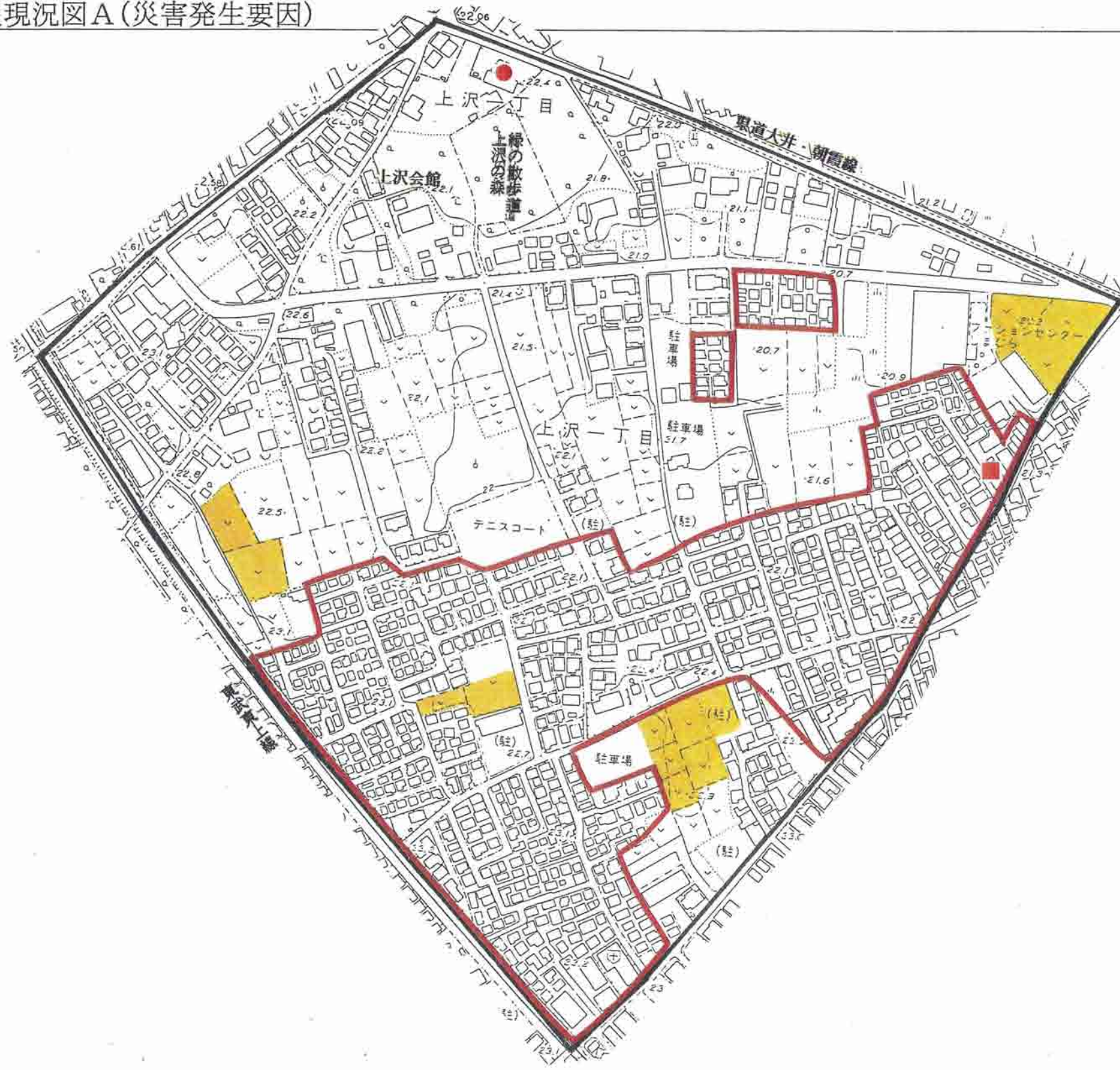
10. 問題点の整理

災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	下水路の溢水。	1. 水防能力	水防施設は無い。
2. 外水災害	無い。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	地盤条件が良いため木造建物の倒壊の危険性は低い。	3. 消防能力	世帯数と比較して消火栓数が少ない。住宅地に道路幅員の狭い生活道路があるため、消防車の消火活動を妨げる恐れがある。
4. 出火危険	南側の住宅地(木造建物密集地)で出火の危険性がやや高いと予想されるため、注意を要する。	4. 防火能力	木造家屋密集地域(町会の南部)の防火能力は低い。
5. 延焼危険	不燃領域率が50%から70%と低いため、木造家屋密集地域で延焼の危険性はやや高いと予想される。	5. 避難収容力	町会内には上沢会館が避難所として指定されているが、収容力は低いため鶴瀬小学校(羽沢2丁目町会)、鶴瀬コミュニティセンター(羽沢3丁目町会)を共用する。 1人あたりの公共面積は2.2㎡/人と見込まれる。
6. その他の災害	無い。		

11. 解決の方向性

内水災害の予防は、幹線道路沿い及び住宅地内の下水路の整備が望まれる。内水災害は、住宅地付近にある低地(畑)の冠水が予想されるため、農作物の被害を予防する対策の指導が必要である。町会の南側の住宅地内で地震火災の危険性がやや高いため、この地域の消防能力の向上(消火栓の増設、道路幅員の狭い生活道路の事前評価と対策)、防火能力の向上(住宅地、商店街の不燃化の促進)が望まれる。住宅密集地域から避難可能な道路へ出るための住宅地内の生活道路の幅員が狭いので、住宅地内での道路の狭隘化の予防対策の指導が望まれる。

防災現況図A(災害発生要因)

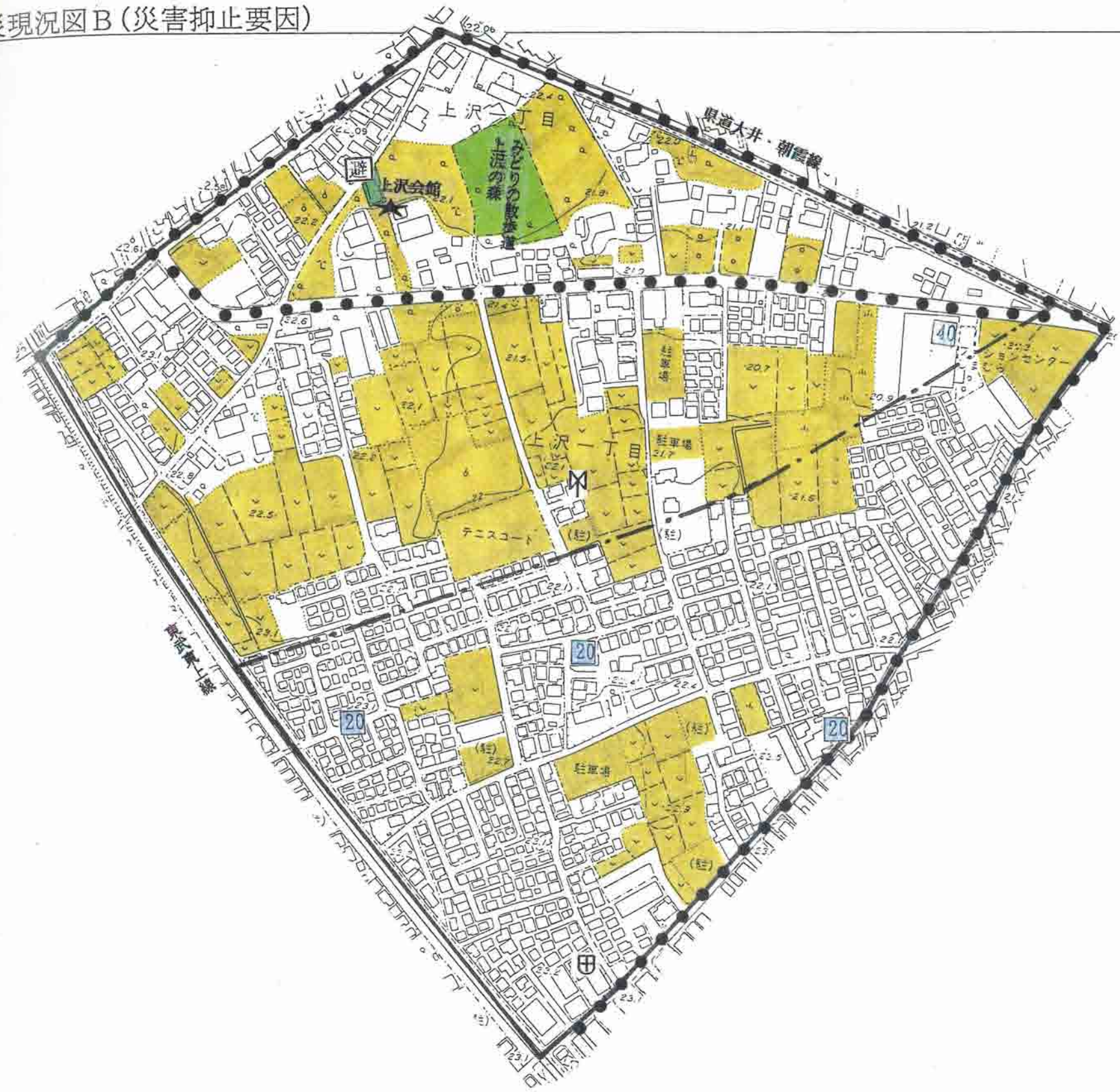


凡 例	
●	給油取扱所
■	一般取扱所
⊙	危険物屋内タンク貯蔵所
◇	危険物屋外タンク貯蔵所
Ⓜ	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋 梁
▽	横断歩道橋
△	立体交差
⬜	木造家屋密集地域
—	河川・水面
⚠	急傾斜地崩壊危険区域
⬜	盛 土
⬜	浅い谷・低地(谷底平野)

既往浸水域(平成3年台風18号)	
■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域



防災現況図B (災害抑止要因)



凡 例	
	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水防施設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病院
	休日診療所
	指定避難所
	公園
	河川・水面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学校 (小・中・高)
	空地・水田・畑

